

証券コード 6754  
平成23年6月6日

株 主 各 位

神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号

**アンリツ株式会社**

代表取締役 橋 本 裕 一

## 第85期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被災されました皆様に対しまして、衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、当社第85期定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面又はインターネット等によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記株主総会参考書類をご検討いただき、次頁のご案内に従って、平成23年6月27日（月曜日）午後5時までに議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 日 時          | 平成23年6月28日（火曜日）午前10時   |
| 2. 場 所          | 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号<br>当社 R&D館 会議室  |
| 3. 目的事項<br>報告事項 | 1. 第85期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）事業報告、<br>連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件<br>2. 第85期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）計算書類報告の件 |
| 決 議 事 項         |  |
| 第1号議案           | 剰余金処分の件  |
| 第2号議案           | 取締役5名選任の件  |
| 第3号議案           | 監査役3名選任の件  |
| 第4号議案           | 役員賞与支給の件   |
| 第5号議案           | 取締役に対するストック・オプション報酬額及び内容決定の件   |
| 第6号議案           | 従業員等に対してストック・オプションとして新株予約権を発行する件   |

以 上

- ~~~~~
- (1)本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、「連結計算書類の連結注記表」及び「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.anritsu.com/ja-JP>)に掲載しておりますので、本招集ご通知の提供書面には記載しておりません。なお、本招集ご通知の提供書面に記載しております連結計算書類及び計算書類は、会計監査人及び監査役が会計監査報告及び監査報告の作成に際して監査をした連結計算書類及び計算書類の一部であります。
- (2)株主総会参考書類、事業報告、連結計算書類及び計算書類の内容について、株主総会の前日までに修正すべき事情が生じた場合には、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.anritsu.com/ja-JP>)における掲載によりお知らせいたします。

~~~~~ < 議決権行使についてのご案内 > ~~~~~

1. 株主総会にご出席の際には、同封の議決権行使書用紙をご持参いただき、会場受付にご提出ください。
2. 当日株主総会にご出席願えない場合は、次のとおり、同封の議決権行使書用紙をご郵送いただくか、又はインターネット等により議決権をご行使ください。

**【書面による議決権行使】**

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成23年6月27日（月曜日）午後5時までに当社株主名簿管理人に到着するようご返送ください。

なお、議案に対する賛否のご表示がないときは、会社提案に「賛」として取り扱わせていただきます。

**【インターネットによる議決権行使】**

- (1) パソコン又は携帯電話を用いて以下の議決権行使サイトにアクセスし、同封の議決権行使書用紙に表示された議決権行使コード及びパスワードをご利用のうえ、画面の案内に従って、平成23年6月27日（月曜日）午後5時までに議案に対する賛否をご登録ください。

**【議決権行使サイトURL】** <http://www.webdk.net>

※バーコード読取機能付の携帯電話を利用して右の「QRコード®」を読み取り、議決権行使サイトにアクセスすることも可能です。

なお、操作方法の詳細については、お手持ちの携帯電話の取扱説明書をご確認ください。



（QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。）

- (2) インターネットによって、複数回、議決権を行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。
- (3) 書面とインターネットにより、二重に議決権を行使された場合は、インターネットによるものを議決権行使として取り扱わせていただきます。
- (4) 議決権行使サイトをご利用いただく際のプロバイダーへの接続料金、通信事業者への通信料金等は株主様のご負担となります。
- (5) パソコンを用いて議決権行使される場合は、インターネット閲覧（ブラウザ）ソフトウェアとして、Microsoft® Internet Explorer 6.0以上が必要となります。また、ハードウェアの環境として、前記インターネット閲覧（ブラウザ）ソフトウェアを使用できることが必要となります。
- (6) 携帯電話を用いて議決権行使される場合は、セキュリティ確保のため、128bitSSL通信（暗号化通信）が可能な機種が必要となります。

（Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。）

**【インターネットによる議決権行使に関するお問い合わせ】**

（株主名簿管理人） 住友信託銀行株式会社 証券代行部

**【専用ダイヤル】** ☎ 0120-186-417（午前9時～午後9時）

< 議決権行使に関する事項以外のご照会 > ☎ 0120-176-417（平日午前9時～午後5時）

(提供書面)

## 事業報告

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当事業年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

###### イ. 全般的概況

当期における世界経済は、ギリシャの財政問題に端を発した欧州の金融システムに対する懸念などから一時的に先行きの不透明感が強まりましたが、新興国の経済成長を軸に総じて緩やかに回復しました。日本では、急速な円高の進行などにより景気回復の動きが停滞しましたが、世界経済の回復や各種の政策効果により回復基調で推移しました。しかしながら、期の後半においては中東情勢の混乱や東日本大震災の発生等により予断を許さない状況になっております。

情報通信ネットワークの分野においては、ブロードバンド化の進展により、映像配信サービスやクラウドコンピューティングなど様々なサービスが生み出されています。また、移動通信の分野では、日米の大手通信事業者が、モバイル端末の飛躍的な通信速度の向上が可能な次世代通信規格であるLTE (Long Term Evolution) の商用サービスを2010年12月に開始したほか、世界の主要な通信事業者も2011年以降の商用サービス開始に向けて準備を進めるなど、LTEへの開発投資が本格化しています。また、すでに世界最大の携帯電話加入者数を有する中国をはじめインドなどの新興国においても携帯電話サービスに対する需要が拡大しており、インフラ整備が進められています。

このようにビジネスチャンスが拡大する中、当社グループは、新製品を積極的に市場投入し売上の拡大を図る一方、収益性の改善のため国内外の販賣体制整備やKPI (重要業績評価指標) による費用や投資の管理強化などを行いました。また、ルーマニアに開発拠点を新設するなど、将来の競争力強化のための施策にも取り組みました。

当期は、計測事業においてモバイル市場向け計測器の需要が堅調に推移しました。この結果、受注高は802億82百万円（前期比5.5%増）、売上高は778億53百万円（前期比5.9%増）となり、営業利益は69億94百万円（前期比52.6%増）となりました。また、経常利益は、円高の進行による為替差損7億68百万円が発生したことなどにより53億62百万円（前期比49.8%増）、当期純利益は、特別損失としてののれんの減損9億86百万円を計上したことにより、30億69百万円（前期比697.0%増）となりました。

また、単独決算につきましては、受注高は398億46百万円（前期比10.1%増）、売上高は391億8百万円（前期比6.4%増）となり、損益につきましては、営業利益は22億49百万円（前期比27.5%増）、経常利益は19億38百万円（前期比3.5%増）、当期純利益は10億39百万円（前期は22億70百万円の損失）となりました。

期末の受注残高は、連結では171億51百万円（前期比16.5%増）、単独では51億47百万円（前期比16.7%増）であります。

なお、東日本大震災により、福島県郡山市の当社事業所及び当社製造子会社（東北アンリツ株式会社）において生産設備等の一部に損傷が発生しましたが、当社グループ従業員への人的な被害はなく、当年度内に全ての生産ラインは復旧し生産を再開しており、当期の経営成績への影響は限定的です。

#### ロ. 事業部門別概況

当期の事業部門別売上高は次のとおりであります。

| 区 分     | 第 84 期(前期) |       | 第 85 期(当期) |       | 前 期 比  |       |
|---------|------------|-------|------------|-------|--------|-------|
|         | 金 額        | 構 成 比 | 金 額        | 構 成 比 | 増 減 額  | 増 減 率 |
|         | 百万円        | %     | 百万円        | %     | 百万円    | %     |
| 計 測     | 48,270     | 65.7  | 53,462     | 68.7  | 5,191  | 10.8  |
| 情 報 通 信 | 5,306      | 7.2   | 4,118      | 5.3   | △1,188 | △22.4 |
| 産 業 機 械 | 11,641     | 15.8  | 12,325     | 15.8  | 684    | 5.9   |
| そ の 他   | 8,329      | 11.3  | 7,946      | 10.2  | △383   | △4.6  |
| 合 計     | 73,548     | 100.0 | 77,853     | 100.0 | 4,304  | 5.9   |

### 〔計測部門〕

この部門は、通信事業者、関連機器メーカー、保守工事業者へ納入する I P ネットワーク通信用、移動通信用、R F ・マイクロ波・ミリ波帯用など、多機種にわたる通信用及び汎用計測器、測定システム、サービス・アシユアランスの開発、製造、販売を行っています。

当期は、次世代通信規格である L T E の基地局の製造・建設需要や携帯端末の開発需要が立ち上がるとともに、多機能携帯端末の製造需要が増大しましたが、地域別では、日本を中心に顧客の設備投資抑制や投資先送りが継続しましたが、北米市場やアジア市場では計測需要が堅調でした。この結果、売上高は534億62百万円（前期比10.8%増）、営業利益は50億50百万円（前期比124.3%増）となりました。

### 〔情報通信部門〕

この部門は、国土交通省をはじめとする官公庁や地方自治体へ納入する映像監視、テレメータなどの公共情報システム、通信オペレーターやインターネットサービスプロバイダー等向けの映像配信ソリューションや帯域制御装置などの開発、製造、販売を行っています。

当期は、帯域制御装置が金融機関のネットワーク向けを中心に堅調に推移しましたが、官公庁向けプロジェクトで進捗遅れや一部凍結がありました。この結果、売上高は41億18百万円（前期比22.4%減）、営業利益は69百万円（前期比51.7%減）となりました。

なお、本事業は子会社アンリツネットワークス株式会社により事業を展開しております。

### 〔産業機械部門〕

この部門は、食品・薬品・化粧品産業向けの生産管理・品質保証システムを事業分野とした、高精度かつ高速の各種自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機などの産業機器の開発、製造、販売を行っています。

当期は、アジアで需要回復の兆しが見られるなど、総じて堅調に推移しました。この結果、売上高は123億25百万円（前期比5.9%増）、営業利益は6億59百万円（前期比8.0%増）となりました。

なお、本事業は子会社アンリツ産機システム株式会社により事業を展開しております。

### 〔その他の部門〕

これら3部門以外に、デバイス事業、精密計測事業、物流、厚生サービス、不動産賃貸等の事業を展開しております。

当期は、デバイス事業では国内外の光通信市場で需要が堅調でしたが、期の後半には需要が一巡しました。精密計測事業は一部に回復の兆しがあるものの全体としては低調でした。この結果、売上高は79億46百万円（前期比4.6%減）、営業利益は16億53百万円（前期比26.5%減）となりました。

売上高を地域別に見ますと、日本は329億52百万円（前期比1.6%減）、米州は189億46百万円（前期比35.7%増）、EME A（欧州・中近東・アフリカ）は106億29百万円（前期比14.7%減）、アジア他は153億24百万円（前期比12.4%増）であり、当社グループ全売上高に対する比率は日本42.3%、米州24.3%、EME A13.7%、アジア他19.7%であります。

### ② 設備投資の状況

当期の設備投資は総額15億49百万円であり、技術革新と販売競争に対処するため新製品開発と原価低減に重点を絞った投資を中心に実施しました。

### ③ 資金調達の状況

当期は、LTE市場をはじめとする成長分野への研究開発投資、事業基盤強化のための設備投資及び有利子負債の返済に充当するため、2015年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債を発行し、100億円の資金調達を実施しました。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況の推移

| 区 分            | 第 82 期<br>平成19年度 | 第 83 期<br>平成20年度 | 第 84 期<br>平成21年度 | 第85期(当期)<br>平成22年度 |
|----------------|------------------|------------------|------------------|--------------------|
| 受 注 高(百万円)     | 101,451          | 81,470           | 76,116           | 80,282             |
| 売 上 高(百万円)     | 100,485          | 83,940           | 73,548           | 77,853             |
| 営 業 利 益(百万円)   | 5,356            | 905              | 4,583            | 6,994              |
| 経 常 利 益(百万円)   | △2,006           | 170              | 3,578            | 5,362              |
| 当 期 純 利 益(百万円) | △3,900           | △3,540           | 385              | 3,069              |
| 1株当たり当期純利益(円)  | △30.60           | △27.78           | 3.02             | 24.09              |
| 総 資 産(百万円)     | 124,917          | 100,983          | 101,188          | 99,249             |
| 純 資 産(百万円)     | 52,845           | 37,524           | 37,674           | 39,906             |
| 1株当たり純資産額(円)   | 414.16           | 294.29           | 295.49           | 313.09             |

(注) 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数に基づき、1株当たり純資産額は期末発行済株式総数に基づきそれぞれ算出しており、表示単位未満を四捨五入して表示しております。なお、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額は、発行済株式総数より自己株式数を控除して算出しております。

### ② 当社の財産及び損益の状況の推移

| 区 分            | 第 82 期<br>平成19年度 | 第 83 期<br>平成20年度 | 第 84 期<br>平成21年度 | 第85期(当期)<br>平成22年度 |
|----------------|------------------|------------------|------------------|--------------------|
| 受 注 高(百万円)     | 51,341           | 41,255           | 36,190           | 39,846             |
| 売 上 高(百万円)     | 49,647           | 41,229           | 36,753           | 39,108             |
| 営 業 利 益(百万円)   | 461              | △1,241           | 1,764            | 2,249              |
| 経 常 利 益(百万円)   | △5,076           | 5,503            | 1,872            | 1,938              |
| 当 期 純 利 益(百万円) | △4,586           | 363              | △2,270           | 1,039              |
| 1株当たり当期純利益(円)  | △35.98           | 2.86             | △17.81           | 8.16               |
| 総 資 産(百万円)     | 125,109          | 123,782          | 123,250          | 122,815            |
| 純 資 産(百万円)     | 64,741           | 64,251           | 61,847           | 62,613             |
| 1株当たり純資産額(円)   | 507.49           | 504.01           | 485.18           | 491.28             |

(注) 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数に基づき、1株当たり純資産額は期末発行済株式総数に基づきそれぞれ算出しており、表示単位未満を四捨五入して表示しております。なお、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額は、発行済株式総数より自己株式数を控除して算出しております。

### (3) 重要な子会社等の状況

#### ① 重要な子会社の状況

| 会 社 名                           | 資 本 金                 | 出資比率  | 主 要 な 事 業 内 容       |
|---------------------------------|-----------------------|-------|---------------------|
| アンリツ産機システム株式会社                  | 1,350百万円              | 100%  | 産業機械の製造、販売          |
| アンリツネットワークス株式会社                 | 355                   | 100   | 情報通信機器の製造、販売        |
| アンリツ計測器カスタムサービス株式会社             | 325                   | 100   | 計測器の校正、修理、保守        |
| 東 北 ア ン リ ツ 株 式 会 社             | 250                   | 100   | 計測器、情報通信機器の製造       |
| アンリツデバイス株式会社                    | 90                    | 100   | 光デバイスの製造            |
| アンリツプレジジョン株式会社                  | 80                    | 100   | 精密計測機器の製造、販売        |
| アンリツエンジニアリング株式会社                | 40                    | 100   | ソフトウェアの開発           |
| ア ン リ ツ 興 産 株 式 会 社             | 20                    | 100   | 施設管理、厚生サービス、カタログ等制作 |
| アンリツ不動産株式会社                     | 20                    | 100   | 不動産の賃貸              |
| アンリツテクマック株式会社                   | 10                    | 100   | 加工品、ユニット組立品の製造、販売   |
| 株式会社アンリツプロアソシエ                  | 10                    | 100   | シェアードサービスセンター業務     |
| Anritsu U.S. Holding, Inc. [米国] | 9千米ドル                 | 100   | 海外子会社の持株会社          |
| Anritsu Company [米国]            | 15,131千米ドル            | (100) | 計測器等の製造、販売          |
| Anritsu EMEA Ltd. [英国]          | 1,502千英ポンド            | 100   | 計測器等の販売             |
| Anritsu Company Ltd. [香港]       | 43,700千香港ドル           | 100   | 計測器等の販売             |
| Anritsu A/S [デンマーク]             | 217,000千デンマーク<br>クローネ | 100   | 計測器等の製造、販売          |

(注) 出資比率欄の括弧内の数字は間接比率を示しております。

#### ② 重要な関係会社の状況

日本電気株式会社は、平成23年3月に退職給付信託に抛出していた当社株式19,200千株を売却しました。これにより同社の当社株式に係る議決権所有割合は6.88%となり、当社は同社の関連会社に該当しないことになりました。

#### (4) 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、戦後最大の国難とも言われる東日本大震災の影響により、投資計画の見直しやサプライチェーンの復旧遅れ、電力不足による生産への影響など多くのリスクが想定され、見通しそのものが困難になっております。また、価格競争の激化や為替相場の動向、原油価格上昇の影響などについても引き続き注視していく必要があります。当社グループはこのような市場環境を踏まえ、事業の安定的な継続に尽力するとともに、次の施策を展開してまいります。



主力の計測事業では、引き続き世界各国で需要の拡大が見込まれるLTEなどのモバイル市場や、スマートフォン等によるデータ通信量の増加により投資が必要となるコアネットワーク市場、中長期的に成長が期待されるエレクトロニクス市場などに対して、顧客ニーズを捉えた競争力のある製品を投入するとともに、新興国においてもネットワーク・インフラやサービス・アシユアランスなどの新たな需要の開拓に取り組みます。また、顧客との開発ロードマップの共有や技術サポートの強化により顧客密着度を高めるとともに、間接販路の拡充やEMSの活用など事業体制の整備を推し進めることで経営効率を高め、さらなる収益力の向上に努めます。

情報通信事業では、IPネットワークソリューションの競争力強化や、システムインテグレータとの協業により、事業の拡大に取り組みます。

産業機械事業は、コスト削減への取組みを強化することで収益力の向上に努める一方、製品の高付加価値化、差別化戦略を進めるとともに、海外生産の本格化など海外市場への展開をさらに加速することで、事業の拡大を目指します。

また、これらの経営戦略を着実に遂行するためには、阻害要因となるリスクを適切に管理・対処し、競争優位の源泉に変えていくことが重要です。このため、内部統制システムの整備により確立した国内外のグループ会社との連携をさらに強化しリスクマネジメントシステムを高度化することで、経営目標の達成に努力してまいります。

当社グループは、誠実な企業活動を通じてこそ企業価値の向上が実現されると考えており、CSR活動にも積極的に取り組んでまいります。当社にとってのCSR活動は、製品・サービスを通じた安全・安心な社会づくりへの貢献が第一義であると考えておりますが、それだけにとどまらず、当社グループの企業活動を、コンプライアンス、地球環境、人権、リスクマネジメントなど、CSRの各領域からも見直すことで、経営インフラの一層の改善に繋げてまいります。さらに、経営の透明性を高め、説明責任を果たすため、コーポレート・ガバナンスの強化に積極的に取り組んでまいります。

当社は、「安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する企業」を目指し、事業の安定拡大及び財務体質の改善に取り組んでまいります。

#### (5) 主要な事業内容（平成23年3月31日現在）

| 事業部門 | 主要製品等                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------------|
| 計測   | デジタル通信・IPネットワーク用測定器、光通信用測定器、移動通信用測定器、RF・マイクロ波・ミリ波帯汎用測定器、サービス・アシユアランス |
| 情報通信 | 公共情報システム、画像集配信システム、IPネットワーク機器                                        |
| 産業機械 | 自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機                                                |
| その他  | 精密寸法測定機、光デバイス、不動産賃貸等                                                 |

(6) 主要な事業所（平成23年3月31日現在）

① 当社

|      | 所在地                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------|
| 本社   | 神奈川県厚木市                                                            |
| 営業拠点 | 神奈川県厚木市、東京都新宿区、北海道札幌市、宮城県仙台市、埼玉県さいたま市、愛知県名古屋市、大阪府吹田市、広島県広島市、福岡県福岡市 |
| 事業所  | 福島県郡山市                                                             |

② 子会社

| 名称                                                                                                                                                                              | 所在地           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| アンリツ産機システム株式会社<br>アンリツネットワークス株式会社<br>アンリツ計測器カスタマーサービス株式会社<br>アンリツデバイス株式会社<br>アンリツプレジジョン株式会社<br>アンリツエンジニアリング株式会社<br>アンリツ興産株式会社<br>アンリツ不動産株式会社<br>アンリツテクマック株式会社<br>株式会社アンリツプロアソシエ | 神奈川県厚木市       |
| 東北アンリツ株式会社                                                                                                                                                                      | 福島県郡山市        |
| Anritsu Company                                                                                                                                                                 | 米国・カリフォルニア    |
| Anritsu EMEA Ltd.                                                                                                                                                               | 英国・ベッドフォードシャー |
| Anritsu Company Ltd.                                                                                                                                                            | 香港・カオルーン      |
| Anritsu A/S                                                                                                                                                                     | デンマーク・コペンハーゲン |

(7) 使用人の状況（平成23年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

| 使用人数   | 前期末比増減 |
|--------|--------|
| 3,614名 | +25名   |

② 当社の使用人の状況

| 使用人数 | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|--------|-------|--------|
| 825名 | △6名    | 40.3歳 | 16.5年  |

(注) 使用人数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含みます。）であります。

(8) 主要な借入先の状況（平成23年3月31日現在）

| 借入先        | 借入額      |
|------------|----------|
| 株式会社三井住友銀行 | 3,063百万円 |
| 住友信託銀行株式会社 | 2,920    |
| 株式会社横浜銀行   | 2,621    |

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（平成23年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 400,000,000株
- ② 発行済株式の総数 128,042,848株（自己株式617,889株を含む。）
- ③ 株主数 16,573名
- ④ 大株主

| 株 主 名                                                                  | 持 株 数 | 持 株 比 率 |
|------------------------------------------------------------------------|-------|---------|
|                                                                        | 千株    | %       |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）                                                | 9,629 | 7.56    |
| 日 本 電 気 株 式 会 社                                                        | 8,312 | 6.52    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）                                             | 8,042 | 6.31    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）                                              | 7,549 | 5.92    |
| 三井住友海上火災保険株式会社                                                         | 2,964 | 2.33    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口                                           | 2,500 | 1.96    |
| 住友生命保険相互会社                                                             | 2,314 | 1.82    |
| 野村信託銀行株式会社（投信口）                                                        | 1,597 | 1.25    |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社（年金特金口）                                                | 1,570 | 1.23    |
| THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A.<br>LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT | 1,452 | 1.14    |

（注）1. 持株比率は自己株式（617,889株）を控除して計算しております。

2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口の持株数2,500千株は、住友信託銀行株式会社が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものです。

## (2) 新株予約権等の状況

### ① 当社役員が保有している新株予約権の状況（平成23年3月31日現在）

- ・新株予約権の数 49個
- ・目的である株式の種類及び数 普通株式 49,000株
- ・当社役員の保有状況

|     | 回次（行使価額）  | 行使期間                      | 個数  | 保有者数 | 行使条件  |
|-----|-----------|---------------------------|-----|------|-------|
| 取締役 | 第6回（566円） | 平成21年8月14日～<br>平成24年8月13日 | 39個 | 3名   | （注）2. |
|     | 第7回（566円） | 平成21年8月14日～<br>平成24年8月13日 | 10個 | 2名   | （注）2. |

- （注）1. 当社は、社外取締役に対して新株予約権を割り当てておりません。
2. (i) 権利行使時においても当社又は当社子会社の取締役もしくは従業員であることを要する。ただし、権利行使期間中に退任、退職により対象者としての地位を喪失した場合は、喪失後1年間に限り新株予約権の行使を認める。なお、平成21年8月13日までに退任、退職により対象者としての地位を喪失した場合は、平成21年8月14日から1年間に限り新株予約権の行使を認める。
- (ii) 新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。
- (iii) 新株予約権者は、次のいずれかに該当する場合、新株予約権の行使をすることができない。
- 1 取締役もしくは従業員として不適格となった場合
  - 2 背任行為により会社に対して不利益を与えた場合
  - 3 平成21年8月13日までに退任、退職した場合であって、新株予約権の割当ての目的上、対象者に新株予約権を行使させることが相当でない認められる事由がある場合

### ② 当期中に従業員等に対して交付した新株予約権の状況

該当事項はありません。

### ③ その他新株予約権等に関する重要な事項

2015年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債

（平成22年9月7日取締役会決議）

- ・新株予約権の数 2,000個
- ・目的である株式の種類及び数 普通株式 15,898,251株
- ・新株予約権の発行価額 無償

（注） 当期中に、2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債70億24百万円（新株予約権の数 3,512個、目的である株式の数 6,564,485株）を満期償還しました。

### (3) 会社役員 の 状況

#### ① 取締役及び監査役の状況（平成23年3月31日現在）

| 地 位       | 氏 名      | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                          |
|-----------|----------|------------------------------------------------------------------|
| 取締役会議長    | 戸 田 博 道  |                                                                  |
| 代表取締役社長   | *橋 本 裕 一 | グループCEO                                                          |
| 代 表 取 締 役 | *田 中 健 二 | 計測事業グループプレジデント、マーケティング本部長                                        |
| 取 締 役     | *山 口 重 久 | 経営企画総括、経営企画室長、コーポレートコミュニケーション部・法務部・ネットワークス営業本部・サービスアシュアランス事業本部担当 |
| 取 締 役     | *小 熊 康 之 | 技術総括、情報戦略総括、環境総括、環境推進センター長、グローバルオーディット室・貿易管理部・経営情報システム部・知的財産部担当  |
| 取 締 役     | 清 田 瞭    | 株式会社大和証券グループ本社 取締役会長兼執行役                                         |
| 取 締 役     | 細 田 泰    |                                                                  |
| 常 勤 監 査 役 | 小 野 浩 平  |                                                                  |
| 常 勤 監 査 役 | 斉 藤 五 郎  |                                                                  |
| 監 査 役     | 龍 岡 資 晃  | 弁護士<br>学習院大学法科大学院教授                                              |
| 監 査 役     | 山 本 徳 男  | 日本電気株式会社 関連企業部長<br>日本アビオニクス株式会社 社外監査役                            |

- (注) 1. 取締役清田 瞭氏及び取締役細田 泰氏は、社外取締役であります。  
 なお、当社は取締役清田 瞭氏及び取締役細田 泰氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
2. 監査役龍岡資晃氏及び監査役山本徳男氏は、社外監査役であります。  
 なお、当社は監査役龍岡資晃氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 監査役山本徳男氏は、日本電気株式会社において長年経理業務を経験し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 平成22年6月24日開催の第84期定時株主総会において、細田 泰氏は取締役に、山本徳男氏は監査役に、それぞれ選任され就任しました。
5. 監査役的井保夫氏は、平成22年6月24日辞任により退任しました。
6. 平成23年4月1日をもって担当等が次のとおり変更されました。

|           |          |                                           |
|-----------|----------|-------------------------------------------|
| 代 表 取 締 役 | *田 中 健 二 | 計測事業グループプレジデント、グローバルオペレーションセンター・計測器営業本部担当 |
| 取 締 役     | 山 口 重 久  |                                           |
| 取 締 役     | 小 熊 康 之  | 常務理事、事業創発担当                               |

7. 当社は執行役員制度を導入しており、前記\*印を付した取締役は執行役員を兼務しております。平成23年4月1日現在の執行役員は次のとおりであります。

| 地 位         | 氏 名        | 地 位     | 氏 名          |
|-------------|------------|---------|--------------|
| 社 長         | 橋 本 裕 一    | 執 行 役 員 | 永 田 修        |
| 専 務 執 行 役 員 | 田 中 健 二    | 執 行 役 員 | 窪 田 顕 文      |
| 常 務 執 行 役 員 | フランク・ティアナン | 執 行 役 員 | 高 橋 光 一 郎    |
| 執 行 役 員     | 城 野 順 吉    | 執 行 役 員 | 政 文 祐        |
| 執 行 役 員     | 高 橋 敏 彦    | 執 行 役 員 | 菊 川 知 之      |
| 執 行 役 員     | 谷 合 俊 澄    | 執 行 役 員 | 川 辺 哲 雄      |
| 執 行 役 員     | 舟 橋 伸 夫    | 執 行 役 員 | ゲラルド・オストハイマー |

## ② 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分   | 人 数 | 報 酬 等 の 額 |
|-------|-----|-----------|
| 取 締 役 | 7 名 | 171百万円    |
| 監 査 役 | 5   | 48        |
| 合 計   | 12  | 220       |

(注) 1. 上記報酬等の額のほか、使用人兼務取締役の使用人分給与相当額（賞与を含みます。）が48百万円あります。

2. 平成18年6月28日開催の第80期定時株主総会による役員報酬限度額（ただし、使用人兼務取締役の使用人分給与相当額を含みません。）は、取締役年額260百万円、監査役年額60百万円であります。

3. 上記報酬等の額には、平成23年6月28日開催予定の第85期定時株主総会において付議いたします役員賞与が次のとおり含まれております。

取締役 5名 60百万円

なお、当社は社外取締役及び監査役に対して賞与を支払っておりません。

4. 上記報酬等の額のほか、平成17年6月23日開催の第79期定時株主総会においてご承認いただいております役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給として、第85期定時株主総会終結の時をもって退任予定の役員に対する役員退職慰労金を次のとおり贈呈する予定であります。

取締役 1名 3百万円

5. 上記報酬等の額のうち、社外取締役2名、社外監査役3名の報酬の合計額は25百万円であります。

6. 上記人数には、平成22年6月24日開催の第84期定時株主総会終結の時をもって退任した監査役1名が含まれております。

### ③ 社外役員に関する事項

#### イ. 社外役員の兼職の状況（他の法人等の業務執行者又は社外役員である場合）

| 氏名    | 地位    | 兼職先及び兼職内容                             |
|-------|-------|---------------------------------------|
| 清田 瞭  | 社外取締役 | 株式会社大和証券グループ本社 取締役会長兼執行役              |
| 山本 徳男 | 社外監査役 | 日本電気株式会社 関連企業部長<br>日本アビオニクス株式会社 社外監査役 |

- (注) 1. 株式会社大和証券グループ本社は、当社の主幹事証券会社である大和証券キャピタル・マーケット株式会社株式の99.97%を保有しております。
2. 清田 瞭氏の平成23年4月1日現在の兼職先及び兼職内容は次のとおりであります。  
株式会社大和証券グループ本社 取締役名誉会長
3. 日本電気株式会社は、間接保有分を含めて、当社の議決権総数の6.88%を所有しております。また、当社は同社と営業取引がありますが、重要な取引関係はありません。
4. 当社と日本アビオニクス株式会社との間に重要な取引関係はありません。

#### ロ. 社外役員の主な活動状況

| 氏名    | 地位    | 主な活動状況                                                                                   |
|-------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 清田 瞭  | 社外取締役 | 当期開催の取締役会13回のうち10回に出席し、必要に応じ、主にグローバルビジネスやファイナンスについて高い見識を有する経営者としての視点から発言を行っております。        |
| 細田 泰  | 社外取締役 | 取締役就任後、当期開催の取締役会11回のうち11回に出席し、必要に応じ、主にグローバルビジネスについて高い見識を有する経営者としての経験に基づく発言を行っております。      |
| 龍岡 資晃 | 社外監査役 | 当期開催の取締役会13回のうち12回に、また、監査役会6回のうち6回に出席し、必要に応じ、主に裁判官や大学教授の経験を有する弁護士として、法律家の立場から発言を行っております。 |
| 山本 徳男 | 社外監査役 | 監査役就任後、当期開催の取締役会11回のうち8回に、また、監査役会4回のうち4回に出席し、必要に応じ、主に経理及び財務の観点から発言を行っております。              |

#### ハ. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役清田 瞭氏及び細田 泰氏は、損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、10百万円又は法令が規定する額のいずれか高い額としております。

当社と社外監査役龍岡資晃氏及び山本徳男氏は、損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、8百万円又は法令が規定する額のいずれか高い額としております。

#### (4) 会計監査人の状況

##### ① 名称 有限責任 あずさ監査法人

(注) あずさ監査法人は、平成22年7月1日付で監査法人の種類の変更により、有限責任あずさ監査法人となりました。

##### ② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額 |
|-------------------------------------|-------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 75百万円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 85百万円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。  
2. 子会社アンリツ産機システム株式会社につきましても、有限責任 あずさ監査法人が会計監査人となっております。  
3. 当社の重要な海外子会社につきましては、当社の会計監査人以外の公認会計士又は監査法人の監査を受けております。

##### ③ 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である新会計基準に関するアドバイザリー業務を委託し、対価を計上しております。

##### ④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当するときは、監査役全員の同意により解任いたします。

取締役会は、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、監査役会の同意を得て又は監査役会の請求により、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の目的とすることとします。



## (5) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容は次のとおりであります。

### ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ. 当社は、経営理念で掲げる「誠と和と意欲」を基本に、経営方針で「良き企業市民としての社会貢献」を表明するとともに、「品格ある企業」に成長することを目指して、アンリツグループ企業行動憲章、アンリツグループ行動規範を制定し、法令と企業倫理の遵守を企業活動の原点としています。

ロ. 当社の取締役・執行役員は、この基本方針の実践が自らの役割であることを認識し、率先垂範のうえ、実効ある社内体制の整備を行い、企業倫理の徹底を図ります。

ハ. 社長を委員長とするCSR推進委員会のもと、企業倫理推進委員会は、倫理法令遵守基本規程に基づき、コンプライアンスに関わる各委員会（情報管理・公正取引推進・輸出入管理・環境管理等の委員会）と連携しながら、コンプライアンス体制の整備、充実に努めます。また、企業倫理推進委員会は、コンプライアンス上の問題点を取締役会に定期的に報告し、取締役会は問題点の改善に努めます。

ニ. 企業倫理推進委員会は、コンプライアンスに関わる各委員会と連携して、従業員に対して教育研修を実施し、その効果をモニタリングします。内部監査部門はコンプライアンスに関わる各委員会及び企業倫理の推進を担う法務部門の活動を監査します。

ホ. 当社の従業員は、アンリツグループ行動規範に違反するおそれがある行為が行われていることを知った場合は、上司経由又は自らが社内窓口、社外窓口で報告・通報する手段を有します。この場合において報告通報の事実は秘密として扱われて、報告・通報者が何らの不利益を蒙ることはありません。

ヘ. 当社は、適正な財務報告とその信頼性を確保するために、組織体制を整備するとともに、内部統制システム基本規程に基づき、内部統制の確実な運用と継続的改善を行います。

### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

イ. 当社は、業務上取り扱う情報について、情報管理基本規程に基づき、厳格かつ適切に管理する体制を整備し運用します。

ロ. 取締役・執行役員の意思決定と業務の執行に係る文書（例えば、株主総会議事録と関連資料、取締役会議事録と関連資料、経営戦略会議議事録と関連資料等）については、法令及び営業秘密管理規程に基づき、保管責任者、保管期間、保管方法を明確にして、適切に管理し、取締役、監査役が

- 当該文書を速やかに閲覽できる体制を整備します。
- ハ. 営業秘密、個人情報については、法令及び営業秘密管理規程、個人情報保護規程に基づき厳格かつ適切に管理します。

### ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- イ. 当社は、当社の主要リスクを①経営の意思決定と業務の執行に係るリスク、②法令違反リスク、③環境保全リスク、④製品・サービスの品質リスク、⑤輸出入管理リスク、⑥情報セキュリティリスク、⑦災害リスクであると認識し、リスクごとにリスク管理責任者を明確にして、リスクの分析評価を行うとともに、規則・ガイドラインの制定、教育研修の実施などリスク管理レベルの向上と事業の継続発展を確保するための体制を整備します。
- ロ. 中期経営計画策定の過程においては、経営環境の変化を踏まえてリスクを洗い出し、経営目標を達成するためにリスク対応策を策定します。また、社長を議長とする取締役・執行役員で構成される月例の経営戦略会議において、必要に応じてリスク分析とリスク対応策の進捗状況を審議するとともに、取締役会に報告します。
- ハ. これらのリスクマネジメントに関する活動を体系化し統一的に運用するため、リスクマネジメント基本規程を制定し、企業価値を一層向上させ、企業活動の持続的発展に結びつけていきます。
- ニ. 会社の経営に重大な影響を及ぼすおそれがある事象が発生した場合には、リスクマネジメント基本規程に基づき、社長が関係者を招集し、状況の把握と対策を講ずるとともに、速やかに取締役会及び監査役会に報告します。
- ホ. 重大な事故、災害が発生した場合には、リスクマネジメント基本規程及び災害・緊急対策基本規程に基づき、社長を本部長とする危機対策本部を設置し、被害の最小化と事業の早期回復に努めます。

### ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- イ. 当社は、経営環境の変化に柔軟かつスピーディに対応し、グローバル企業としての競争力を高め、継続的に企業価値を向上させていくため、執行役員制度のもと、取締役・執行役員の職務分担を明確にし、当該業務の執行については、業務分掌規程において各部門の業務分掌を明確にするとともに、その責任者を定め、適正かつ効率的に職務が行われる体制を確保します。
- ロ. 取締役会は、毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、機動的な意思決定を行うものとします。
- ハ. 取締役会は、経営戦略会議が策定した中期経営計画とそれに連動した単年度の経営予算の審議、承認及び執行状況の監督をします。

ニ. 社長は、中期経営計画と経営予算に基づき自らのミッションと年度目標を設定し、経営目標を達成するためリーダーシップを発揮します。執行役員は、それを受けて自らの職務の権限と分担に基づいたミッションと年度目標を設定し、その実現に取り組みます。

**⑤ 当該株式会社及びグループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

イ. 当社グループの企業集団としての業務の適正を確保するため、グループ会社全てに適用する行動指針として、アンリツグループ企業行動憲章、アンリツグループ行動規範の徹底を図ります。

ロ. 取締役・執行役員は、グループ経営の効率性をより高めるために、分担する子会社の取締役・執行役員と緊密な連携のもと、経営管理を実施するとともに、リスクマネジメント体制の整備を図ります。

ハ. 取締役・執行役員は、それぞれの職務分担に従い、グループ会社が適切な内部統制システムを整備するように指導します。

ニ. アンリツグループに属する会社間の取引は、法令・会計原則・税法その他の社会規範に照らして適切なものとします。

**⑥ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項**

イ. 監査役は、内部監査部門にその職務の補助を要請できることとし、その旨を内部監査部門に関する業務分掌規程により明確化します。

ロ. 監査役は、必要に応じて本社管理部門の専門知識を有する従業員からの協力及び事務の取扱いに関する支援を受けることができるものとします。

**⑦ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項**

イ. 監査役よりその職務の補助及び協力を要請された内部監査部門及び本社管理部門の従業員は、その要請事項に関しては、取締役・執行役員及び上長等の指揮・命令を受けないものとします。

ロ. 内部監査部門の長の人事異動は、常勤監査役の事前の同意を得なければならないものとします。

**⑧ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制**

イ. 監査役は、重要な意思決定のプロセスや業務の執行状況を把握するため、取締役会に加え、経営戦略会議、中期経営計画等の審議会など重要会議への出席をはじめとして、監査役が必要と判断した会議に出席できるものとします。

- ロ. 監査役は、稟議書等の業務執行に係る重要な文書を閲覧できるとともに、監査役が必要と判断した場合、取締役・執行役員及び従業員に該当書類の提示や説明を求めることができます。
- ハ. 取締役・執行役員及び従業員は、当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事項又は法令もしくは定款に違反する行為を認知した場合は、当該事項等のほか、内部監査の実施状況、内部統制システムの整備運用状況、重要な会計方針・会計基準及びその変更、その他必要な重要事項を、速やかに監査役に報告するものとします。また、監査役への報告体制及び情報伝達ルートについて規程として明確化し、社内に周知徹底するものとします。

⑨ **その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

- イ. 代表取締役は、監査役と定期的に会合をもち、会社が対処すべき課題や監査上の重要課題等について意見交換を行い、相互の意思疎通を図るものとします。
- ロ. 内部監査部門は、監査役に対し、内部監査の計画及び結果の報告を定期的及び必要に応じて行い、相互の連携を図ります。また、監査役は、必要に応じて内部監査部門及び内部監査に関連する管理部門に調査を求めることができます。
- ハ. 監査役が連結経営に対応したグループ全体の監査を実効的かつ適正に行うことができるようにするため、監査役への情報提供体制及び内部監査部門との連携体制を整備します。
- ニ. 取締役・執行役員は、監査役の監査がより効果的に行われるために、内部監査体制の充実や協力体制の徹底を図ります。
- ホ. 監査役は、監査の実施にあたり必要と認めるときは、自らの判断で、弁護士、公認会計士その他の外部専門家を活用できるものとします。

## (6) 株式会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

### ① 基本方針の内容

当社は、公開企業として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否か、ひいては会社を支配する者の在り方は、最終的には株主の皆様に基づき決定すべきものと考えます。一方で、当社は、企業価値の源泉となり株主共同の利益を構築している経営資源の蓄積を最大限に生かし、当社グループのブランド価値を高めていくためには、中長期的観点からの安定的な経営及び蓄積された経営資源に関する十分な理解が不可欠であると考えています。従って、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者に、これらに関する十分な理解なくしては、当社の企業価値及び株主共同の利益が毀損されるおそれがあると考えています。

この点、当社は、当社株式の適正な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただくようIR活動に努めておりますものの、突然大規模な買付行為がなされたときに、株主の皆様が適切に大規模な買付行為に応じるか否かの判断を行うためには、当社取締役会からの情報提供に加え、かかる大規模買付者から十分な情報を提供いただき、当社の事業特性を十分に理解している当社取締役会がこれに対する評価・意見等を提供することにより、株主の皆様が適切な判断を行うために必要かつ十分な情報及び時間が確保されることが極めて重要になるものと考えております。さらに、当社株式の継続保有をお考えの株主の皆様にとっても、かかる買付行為が当社に与える影響や、買付者が考える当社の経営に参画したときの経営方針、事業計画の内容、当該買付行為に対する当社取締役会の意見等の情報は、当社株式の継続保有を検討するうえで重要な判断材料となると考えます。こうした観点から、当社は、企業価値及び株主共同の利益の確保と向上のために、大規模な買付行為を行う買付者において、株主の皆様判断のために、当社が設定し事前に開示する一定のルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）に従って、買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、当社取締役会における一定の評価期間が経過した後のみ当該買付行為を開始する必要があると考えております。また、大規模買付ルールに従ったものであっても、当社の企業価値又は株主共同の利益を著しく損なうと認められる大規模な買付行為に対しては、対抗措置を講ずる必要があると考えております。

以上を踏まえ、当社は、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合、又は、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守する場合であっても、例外的に当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうおそれが存する場合には、かかる大規模買付者は当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であるとして、法令及び定款によって許容される限度において相当な措置を講じることにより、当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上を図ることが必要であると考えております。

## ② 基本方針の実現のための取組みの概要

### イ. 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は、利益ある持続的成長を目指した中期経営計画を策定し、その実現に向けてグループを挙げて取り組んでおります。また、当社は、コーポレート・ガバナンスの強化のため、執行役員制度の導入や独立性のある社外取締役の選任による経営監督機能の強化、報酬諮問委員会の設置による経営の透明性の確保に努めております。

このような取組みは、当社の企業価値を高めるものであり、その結果、当社の企業価値及び株主共同の利益を著しく損なう大規模買付者が現れる危険性を低減するものとして、前記①の基本方針に沿うものと考えます。

### ロ. 基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成22年6月24日開催の当社第84期定時株主総会において、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保し、向上させることを目的に、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下「本プラン」といいます。）の継続を付議し、株主の皆様のご承認を得て継続導入いたしました。

#### 1 本プランの概要

本プランは、当社株式に対する大規模買付行為（保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付け等、又は買付け等に係る株券等の株券等所有割合及び特別関係者の株券等保有割合の合計が20%以上となる買付け等）が行われる場合に、株主の皆様が適切な判断を行うための必要かつ十分な情報及び時間を確保するため、当社取締役会が、大規模買付情報の提供や当社取締役会による評価・検討期間の確保等を内容とする「大規模買付ルール」を定め、大規模買付者に対してルールの遵守を求め、大規模買付者がルールを遵守しない場合など必要に応じて対抗措置として新株予約権の無償割当て等を実施する、というものであります。なお、対抗措置を発動しない場合は、ルールに定める期間経過後に、株主の皆様の判断を仰ぐこととなります。

#### 2 大規模買付ルールの内容

大規模買付者は、買付け実行に先立って当社取締役会に対し大規模買付ルールを遵守する旨の誓約文言等を含む意向表明書を提出した後、当社の求めに応じ、大規模買付者の詳細、買付けの目的、方法及び内容、買付け後の当社の経営方針等の大規模買付情報を提供するものとします。

当該大規模買付情報の提供の完了後、対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社株券等の全ての買付けの場合は60日間、その他の大規模買付行為の場合は90日間を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案作成のための期間（以下「買付行為評価期間」といいます。）として当社取締役会に与えられるものとします。

当社取締役会は、大規模買付者から大規模買付情報等の提供を受けた後、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外取締役、社外監査役及び社外有識者によって構成される独立委員会に、買付け内容の検討、対抗措置発動の是非等について諮問し、独立委員会は、買付行為評価期間内に、当該買付け内容等を検討し、当社取締役会に対して対抗措置発動の是非を含む勧告（発動に関して株主総会の承認を得るべき旨の勧告を含みます。）を行います。当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限に尊重し、最終的に対抗措置の発動・不発動について決議するものとします。ただし、独立委員会が対抗措置の発動に際して株主総会の承認を得るべき旨の勧告を行った場合、当社取締役会は、株主意思確認のための株主総会を招集し、対抗措置発動に関する議案を付議することができるものとします。当社取締役会は、当該株主総会において対抗措置発動に関する議案が可決された場合には、対抗措置発動の決議を行い、議案が否決された場合には、不発動の決議を行うものとします。

### 3 本プランの有効期間

本プランの有効期間は、当社第84期定時株主総会終結の時から平成25年3月期の事業年度に関する定時株主総会終結の時までの3年間とします。なお、本プランは、有効期間内であっても、当社取締役会で本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されます。

なお、本プランの詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.anritsu.com/ja-JP>) に掲載の平成22年4月27日付プレスリリースをご覧ください。

### ③ 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

本プランは、大規模買付ルールの内容等を規定するものでありますが、株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かの判断を可能とするため、大規模買付者から情報提供をすること、及び、それに対する当社取締役会における一定の評価期間が経過した後にはのみ、大規模買付行為を開始することを求め、これを遵守しない大規模買付者に対して当社取締役会が対抗措置を講じることがあることを定めております。また、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当社の企業価値又は株主共同の利益を著しく損なうと認められる大規模買付行為に対しては、対抗措置を講じることがあることを定めております。よって、本プランは、基本方針に沿うものであると考えます。

また、当社は、本プランが独立委員会の設置など、公正性・客観性を担保するとともに、所定の場合には対抗措置発動につき株主意思確認のための株主総会を招集できることとするなど、取締役会の恣意的判断を排除する仕組みが講じられており、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社会社役員の地位の維持を目的とするものではないものと考えております。

(注) 本事業報告における金額及び株式数は、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を除き表示単位未満をそれぞれ切り捨てて表示しております。また、比率(%)は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

## 連結貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額           | 科 目                    | 金 額           |
|-----------------|---------------|------------------------|---------------|
| <b>資 産 の 部</b>  |               | <b>負 債 の 部</b>         |               |
| <b>流 動 資 産</b>  | <b>69,673</b> | <b>流 動 負 債</b>         | <b>20,403</b> |
| 現金及び預金          | 27,993        | 支払手形及び買掛金              | 6,147         |
| 受取手形及び売掛金       | 19,175        | 短期借入金                  | 2,239         |
| 製 品             | 6,184         | 未払法人税等                 | 867           |
| 仕 掛 品           | 4,520         | 役員賞与引当金                | 93            |
| 原 材 料           | 5,058         | そ の 他                  | 11,055        |
| 繰延税金資産          | 5,813         | <b>固 定 負 債</b>         | <b>38,938</b> |
| そ の 他           | 1,207         | 社 債                    | 9,900         |
| 貸倒引当金           | △279          | 新株予約権付社債               | 10,000        |
| <b>固 定 資 産</b>  | <b>29,575</b> | 長期借入金                  | 14,700        |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>17,652</b> | リース債務                  | 1,178         |
| 建物及び構築物         | 10,789        | 繰延税金負債                 | 345           |
| 機械装置及び運搬具       | 1,389         | 退職給付引当金                | 1,895         |
| 工具、器具及び備品       | 1,227         | 役員退職慰労引当金              | 20            |
| 土 地             | 4,245         | そ の 他                  | 898           |
| 建設仮勘定           | 0             | <b>負 債 合 計</b>         | <b>59,342</b> |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>1,872</b>  | <b>純資産の部</b>           |               |
| の れ ん           | 1,255         | <b>株 主 資 本</b>         | <b>47,002</b> |
| そ の 他           | 617           | 資 本 金                  | 14,051        |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>10,049</b> | 資本剰余金                  | 23,001        |
| 投資有価証券          | 806           | 利益剰余金                  | 10,792        |
| 繰延税金資産          | 1,270         | 自 己 株 式                | △842          |
| 長期前払費用          | 7,571         | その他の包括利益累計額            | △7,107        |
| そ の 他           | 480           | その他有価証券評価差額金           | 122           |
| 貸倒引当金           | △79           | 繰延ヘッジ損益                | △21           |
| <b>資 産 合 計</b>  | <b>99,249</b> | 為替換算調整勘定               | △7,207        |
|                 |               | 新 株 予 約 権              | 11            |
|                 |               | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>39,906</b> |
|                 |               | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>99,249</b> |



## 連結損益計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目                 | 金 額   |        |
|---------------------|-------|--------|
| 売上高                 |       | 77,853 |
| 売上原価                |       | 43,033 |
| 売上総利益               |       | 34,819 |
| 販売費及び一般管理費          |       | 27,825 |
| 営業利益                |       | 6,994  |
| 営業外収益               |       |        |
| 受取利息及び配当金           | 117   |        |
| その他の                | 142   | 259    |
| 営業外費用               |       |        |
| 支払利息                | 710   |        |
| 為替差損                | 768   |        |
| その他の                | 412   | 1,891  |
| 経常利益                |       | 5,362  |
| 特別利益                |       |        |
| 新株予約権戻入益            | 8     | 8      |
| 特別損失                |       |        |
| のれん減損損失             | 986   |        |
| 投資有価証券評価損           | 77    |        |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 68    | 1,132  |
| 税金等調整前当期純利益         |       | 4,237  |
| 法人税、住民税及び事業税        | 1,043 |        |
| 法人税等調整額             | 125   | 1,168  |
| 少数株主損益調整前当期純利益      |       | 3,069  |
| 当期純利益               |       | 3,069  |

## 連結株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目           | 金 額           | 科 目                  | 金 額           |
|---------------|---------------|----------------------|---------------|
| <b>株主資本</b>   |               | <b>その他の包括利益累計額</b>   |               |
| <b>資本金</b>    |               | <b>その他有価証券評価差額金</b>  |               |
| 前期末残高         | 14,049        | 前期末残高                | 138           |
| 当期変動額         |               | 当期変動額                |               |
| 新株の発行         | 1             | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | △16           |
| 当期変動額合計       | 1             | 当期変動額合計              | △16           |
| <b>当期末残高</b>  | <b>14,051</b> | <b>当期末残高</b>         | <b>122</b>    |
| <b>資本剰余金</b>  |               | <b>繰延ヘッジ損益</b>       |               |
| 前期末残高         | 22,999        | 前期末残高                | △28           |
| 当期変動額         |               | 当期変動額                |               |
| 新株の発行         | 1             | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | 7             |
| 当期変動額合計       | 1             | 当期変動額合計              | 7             |
| <b>当期末残高</b>  | <b>23,001</b> | <b>当期末残高</b>         | <b>△21</b>    |
| <b>利益剰余金</b>  |               | <b>為替換算調整勘定</b>      |               |
| 前期末残高         | 7,978         | 前期末残高                | △6,647        |
| 当期変動額         |               | 当期変動額                |               |
| 剰余金の配当        | △254          | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | △560          |
| 当期純利益         | 3,069         | 当期変動額合計              | △560          |
| 自己株式の処分       | △0            | <b>当期末残高</b>         | <b>△7,207</b> |
| 当期変動額合計       | 2,814         | <b>その他の包括利益累計額合計</b> |               |
| <b>当期末残高</b>  | <b>10,792</b> | 前期末残高                | △6,537        |
| <b>自己株式</b>   |               | 当期変動額                |               |
| 前期末残高         | △836          | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | △570          |
| 当期変動額         |               | 当期変動額合計              | △570          |
| 自己株式の取得       | △7            | <b>当期末残高</b>         | <b>△7,107</b> |
| 自己株式の処分       | 0             | <b>新株予約権</b>         |               |
| 当期変動額合計       | △6            | 前期末残高                | 19            |
| <b>当期末残高</b>  | <b>△842</b>   | 当期変動額                |               |
| <b>株主資本合計</b> |               | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | △8            |
| 前期末残高         | 44,191        | 当期変動額合計              | △8            |
| 当期変動額         |               | <b>当期末残高</b>         | <b>11</b>     |
| 新株の発行         | 3             | <b>純資産合計</b>         |               |
| 剰余金の配当        | △254          | 前期末残高                | 37,674        |
| 当期純利益         | 3,069         | 当期変動額                |               |
| 自己株式の取得       | △7            | 新株の発行                | 3             |
| 自己株式の処分       | 0             | 剰余金の配当               | △254          |
| 当期変動額合計       | 2,811         | 当期純利益                | 3,069         |
| <b>当期末残高</b>  | <b>47,002</b> | 自己株式の取得              | △7            |
|               |               | 自己株式の処分              | 0             |
|               |               | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | △578          |
|               |               | 当期変動額合計              | 2,232         |
|               |               | <b>当期末残高</b>         | <b>39,906</b> |

## 貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額            | 科 目             | 金 額            |
|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| <b>資産の部</b>     |                | <b>負債の部</b>     |                |
| <b>流動資産</b>     | <b>45,595</b>  | <b>流動負債</b>     | <b>24,887</b>  |
| 現金及び預金          | 18,755         | 買掛金             | 5,858          |
| 受取手形            | 479            | 短期借入金           | 1,839          |
| 売掛金             | 12,483         | リース債            | 415            |
| 製品              | 2,951          | 未払金             | 3,578          |
| 仕掛品             | 1,874          | 未払費用            | 1,016          |
| 原材料             | 3,139          | 未払法人税等          | 63             |
| 繰延税金資産          | 4,189          | 前受金             | 870            |
| 未収入金            | 1,523          | 預り金             | 11,183         |
| その他             | 271            | 役員賞与引当金         | 60             |
| 貸倒引当金           | △73            | その他             | 0              |
| <b>固定資産</b>     | <b>77,219</b>  | <b>固定負債</b>     | <b>35,315</b>  |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>8,859</b>   | 社債              | 9,900          |
| 建物              | 6,536          | 新株予約権付社債        | 10,000         |
| 構築物             | 140            | 長期借入金           | 14,100         |
| 機械及び装置          | 108            | リース債            | 1,008          |
| 車輛運搬具           | 1              | 役員退職慰労引当金       | 10             |
| 工具、器具及び備品       | 788            | その他             | 296            |
| 土地              | 1,285          | <b>負債合計</b>     | <b>60,202</b>  |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>260</b>     | <b>純資産の部</b>    |                |
| ソフトウェア          | 260            | <b>株主資本</b>     | <b>62,504</b>  |
| その他             | 0              | 資本金             | 14,051         |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>68,099</b>  | 資本剰余金           | 23,001         |
| 投資有価証券          | 597            | 資本準備金           | 23,001         |
| 関係会社株式          | 52,195         | 利益剰余金           | 26,294         |
| 出資金             | 20             | 利益準備金           | 2,468          |
| 長期貸付金           | 9,229          | その他利益剰余金        | 23,826         |
| 長期前払費用          | 5,921          | 別途積立金           | 21,719         |
| 繰延税金資産          | 15             | 繰越利益剰余金         | 2,107          |
| その他             | 121            | <b>自己株式</b>     | <b>△842</b>    |
| 貸倒引当金           | △0             | 評価・換算差額等        | 97             |
| <b>資産合計</b>     | <b>122,815</b> | その他有価証券評価差額金    | 119            |
|                 |                | 繰延ヘッジ損益         | △21            |
|                 |                | 新株予約権           | 11             |
|                 |                | <b>純資産合計</b>    | <b>62,613</b>  |
|                 |                | <b>負債・純資産合計</b> | <b>122,815</b> |

## 損 益 計 算 書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目                                   | 金 額  |        |
|---------------------------------------|------|--------|
| 売 上 高                                 |      | 39,108 |
| 売 上 原 価                               |      | 28,802 |
| 売 上 総 利 益                             |      | 10,305 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費                   |      | 8,055  |
| 営 業 利 益                               |      | 2,249  |
| 営 業 外 収 益                             |      |        |
| 受 取 利 息                               | 307  |        |
| 受 取 配 当 金                             | 384  |        |
| ブ ラ ン ド 管 理 料                         | 114  |        |
| そ の 他                                 | 114  | 919    |
| 営 業 外 費 用                             |      |        |
| 支 払 利 息                               | 428  |        |
| 社 債 利 息                               | 187  |        |
| 為 替 差 損                               | 264  |        |
| そ の 他                                 | 350  | 1,231  |
| 経 常 利 益                               |      | 1,938  |
| 特 別 利 益                               |      |        |
| 新 株 予 約 権 戻 入 益                       | 8    | 8      |
| 特 別 損 失                               |      |        |
| 関 係 会 社 株 式 評 価 損                     | 964  |        |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損                     | 77   |        |
| 資 産 除 去 債 務 会 計 基 準 の 適 用 に 伴 う 影 響 額 | 32   | 1,074  |
| 税 引 前 当 期 純 利 益                       |      | 871    |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税               | △460 |        |
| 法 人 税 等 調 整 額                         | 291  | △168   |
| 当 期 純 利 益                             |      | 1,039  |

## 株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額           | 科 目                 | 金 額           |
|-----------------|---------------|---------------------|---------------|
| <b>株主資本</b>     |               | <b>株主資本合計</b>       |               |
| <b>資本金</b>      |               | 前期末残高               | 61,722        |
| 前期末残高           | 14,049        | 当期変動額               |               |
| 当期変動額           |               | 新株の発行               | 3             |
| 新株の発行           | 1             | 剰余金の配当              | △254          |
| 当期変動額合計         | 1             | 当期純利益               | 1,039         |
| <b>当期末残高</b>    | <b>14,051</b> | 自己株式の取得             | △7            |
| <b>資本剰余金</b>    |               | 自己株式の処分             | 0             |
| <b>資本準備金</b>    |               | 当期変動額合計             | 781           |
| 前期末残高           | 22,999        | <b>当期末残高</b>        | <b>62,504</b> |
| 当期変動額           |               | <b>評価・換算差額等</b>     |               |
| 新株の発行           | 1             | <b>その他有価証券評価差額金</b> |               |
| 当期変動額合計         | 1             | 前期末残高               | 134           |
| <b>当期末残高</b>    | <b>23,001</b> | 当期変動額               |               |
| <b>利益剰余金</b>    |               | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △14           |
| <b>利益準備金</b>    |               | 当期変動額合計             | △14           |
| 前期末残高           | 2,468         | <b>当期末残高</b>        | <b>119</b>    |
| 当期変動額           |               | <b>繰延ヘッジ損益</b>      |               |
| 当期変動額合計         | -             | 前期末残高               | △28           |
| <b>当期末残高</b>    | <b>2,468</b>  | 当期変動額               |               |
| <b>その他利益剰余金</b> |               | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 7             |
| <b>別途積立金</b>    |               | 当期変動額合計             | 7             |
| 前期末残高           | 21,719        | <b>当期末残高</b>        | <b>△21</b>    |
| 当期変動額           |               | <b>評価・換算差額等合計</b>   |               |
| 当期変動額合計         | -             | 前期末残高               | 105           |
| <b>当期末残高</b>    | <b>21,719</b> | 当期変動額               |               |
| <b>繰越利益剰余金</b>  |               | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △7            |
| 前期末残高           | 1,322         | 当期変動額合計             | △7            |
| 当期変動額           |               | <b>当期末残高</b>        | <b>97</b>     |
| 剰余金の配当          | △254          | <b>新株予約権</b>        |               |
| 当期純利益           | 1,039         | 前期末残高               | 19            |
| 自己株式の処分         | △0            | 当期変動額               |               |
| 当期変動額合計         | 784           | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △8            |
| <b>当期末残高</b>    | <b>2,107</b>  | 当期変動額合計             | △8            |
| <b>利益剰余金合計</b>  |               | <b>当期末残高</b>        | <b>11</b>     |
| 前期末残高           | 25,509        | <b>純資産合計</b>        |               |
| 当期変動額           |               | 前期末残高               | 61,847        |
| 剰余金の配当          | △254          | 当期変動額               |               |
| 当期純利益           | 1,039         | 新株の発行               | 3             |
| 自己株式の処分         | △0            | 剰余金の配当              | △254          |
| 当期変動額合計         | 784           | 当期純利益               | 1,039         |
| <b>当期末残高</b>    | <b>26,294</b> | 自己株式の取得             | △7            |
| <b>自己株式</b>     |               | 自己株式の処分             | 0             |
| 前期末残高           | △836          | 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △16           |
| 当期変動額           |               | 当期変動額合計             | 765           |
| 自己株式の取得         | △7            | <b>当期末残高</b>        | <b>62,613</b> |
| 自己株式の処分         | 0             |                     |               |
| 当期変動額合計         | △6            |                     |               |
| <b>当期末残高</b>    | <b>△842</b>   |                     |               |

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

平成23年5月16日

アンリツ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 市川一郎 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 森居達郎 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アンリツ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。この連結計算書類の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アンリツ株式会社及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

平成23年5月16日

アンリツ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 市川 一郎 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 森居 達郎 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アンリツ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第85期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第85期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、当期の監査方針、監査計画、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、当期の監査方針、監査計画、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。子会社については、子会社の取締役及び監査役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。



## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- 四 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成23年5月16日

アンリツ株式会社 監査役会

常勤監査役 小 野 浩 平 ㊟

常勤監査役 斉 藤 五 郎 ㊟

社外監査役 龍 岡 資 晃 ㊟

社外監査役 山 本 徳 男 ㊟

以 上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営方針の一つに掲げ、連結当期純利益の水準に応じて連結純資産配当率（DOE）を上昇させることを基本に、事業環境や次期以降の業績の見通しなど、諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行う方針です。また、内部留保資金は、急速に進展する技術革新や市場構造の変化に対応するための研究開発や設備投資に活用していく方針です。

当期の剰余金の処分につきましては、基本方針に基づき諸般の事情を総合的に考慮して、次のとおりといたしたいと存じます。

### 期末配当に関する事項

- |                                                         |                |
|---------------------------------------------------------|----------------|
| (1) 配当財産の種類                                             | 金銭             |
| (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額                          |                |
| 当社普通株式1株当たり金5円                                          | 総額637,124,795円 |
| なお、当期は1株につき2円の間配当をさせていただいておりますので、当期の年間配当金は1株につき7円となります。 |                |
| (3) 剰余金の配当が効力を生ずる日                                      | 平成23年6月29日     |

## 第2号議案 取締役5名選任の件

本総会終結の時をもって取締役田中健二、山口重久、小熊康之、清田 瞭の4氏が任期満了となりますので、経営体制の強化のため取締役を1名増員し、取締役5名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                      | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 所有する当社株式の数 |
|-------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | たなか けんじ<br>田中 健二<br>(昭和27年3月13日生) | 昭和49年4月 当社入社<br>平成14年3月 メジャメント ソリューションズ<br>ワイヤレスコム事業部マーケティング部長<br>平成15年4月 計測事業統轄本部ワイヤレス計測<br>事業部プロダクトマーケティング<br>部長<br>平成16年4月 執行役員就任<br>計測事業統轄本部ワイヤレス計測<br>事業部長<br>平成20年4月 営業・CRM戦略グループ マーケ<br>ティング本部長<br>平成21年4月 マーケティング本部長<br>平成21年6月 取締役就任<br>マーケティング本部長委嘱<br>平成22年4月 専務執行役員兼務 (現任)<br>計測事業グループプレジデント<br>(現任)<br>平成22年6月 代表取締役就任 (現任) | 7,000株     |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                             | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                 | 所有する当社株式の数 |
|-------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 2     | しろのじゅんきち<br>城野順吉<br>(昭和30年9月30日生)        | 昭和53年4月 当社入社<br>平成14年7月 フォトニック メジャメント ソリューションズ品質管理部長<br>平成15年4月 計測事業統轄本部品質管理部長<br>平成20年4月 R&D統轄本部デバイスR&Dセンター長<br>アンリツデバイス株式会社代表取締役社長就任<br>平成21年4月 執行役員就任(現任)<br>SCM本部長<br>平成23年4月 マーケティング総括(現任)<br>マーケティング本部長(現任)                                  | 4,000株     |
| 3     | たに あい とし すみ<br>谷 合 俊 澄<br>(昭和32年11月23日生) | 昭和56年4月 当社入社<br>平成16年7月 営業本部営業支援部長<br>平成20年4月 人事総務部担当部長<br>平成21年4月 執行役員就任(現任)<br>人事総務部長<br>平成23年4月 コーポレート総括(現任)                                                                                                                                    | 3,000株     |
| 4     | あお い みち かず<br>青 井 倫 一<br>(昭和22年2月16日生)   | 昭和55年4月 慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授<br>平成2年4月 同研究科教授<br>平成13年10月 同研究科委員長兼ビジネス・スクール校長<br>平成17年10月 同研究科教授<br>平成22年6月 株式会社東京カソード研究所社外取締役就任(現任)<br>平成23年4月 明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授(現任)<br><br>(重要な兼職の状況)<br>明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授<br>株式会社東京カソード研究所 社外取締役 | なし         |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)                 | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                    | 所有する当社<br>株式の数 |
|-----------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 5         | せき 関 たか 孝 や 哉<br>(昭和28年7月9日生) | 昭和52年4月 東洋信託銀行株式会社（現三菱UFJ信託銀行株式会社）入社<br>平成7年10月 同社証券代行部企画グループ調査役<br>平成13年3月 みずほ証券株式会社入社<br>平成13年10月 株式会社日本投資環境研究所調査部長兼首席研究員<br>平成18年4月 明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科兼任講師（現任）<br>平成20年6月 コーポレート・プラクティス・パートナーズ株式会社代表取締役就任（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>コーポレート・プラクティス・パートナーズ株式会社 代表取締役 | なし             |

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 青井倫一氏及び関 孝哉氏は、社外取締役候補者であります。  
 なお、社外取締役候補者に関する特記事項は以下のとおりであります。
- (1) 青井倫一氏につきましては、直接、会社の経営に関与したことはありませんが、大学院教授としての経営に関する豊富な知識と卓越した見識を当社の経営に反映していただくため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
  - (2) 関 孝哉氏につきましては、コーポレート・ガバナンスの専門家としての豊富な知識と卓越した見識を当社の経営に反映していただくため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
  - (3) 当社は、青井倫一氏及び関 孝哉氏が原案どおり選任された場合には、両氏との間で損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。当該契約に基づく賠償責任限度額は、100万円又は法令が規定する額のいずれか高い額としております。
  - (4) 青井倫一氏は、平成23年6月にエーザイ株式会社の社外取締役に就任予定です。
  - (5) 当社は、青井倫一氏及び関 孝哉氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出る予定です。
3. 当社と明治大学、株式会社東京カソード研究所及びコーポレート・プラクティス・パートナーズ株式会社との間に重要な取引関係はありません。

### 第3号議案 監査役3名選任の件

本総会終結の時をもって監査役齊藤五郎、龍岡資晃の両氏が任期満了となり、監査役山本徳男氏が辞任されますので、監査役3名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                         | 略歴、地位及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                | 所有する当社株式の数 |
|-------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | やまぐちしげひさ<br>山 口 重 久<br>(昭和27年6月11日生) | 昭和50年4月 当社入社<br>平成11年6月 海外第1営業本部第2営業部長<br>平成14年7月 グローバルマーケティング本部長<br>平成15年4月 執行役員就任<br>グローバルビジネス本部長<br>平成15年6月 取締役就任(現任)<br>グローバルビジネス本部長委嘱<br>平成16年4月 計測事業統轄本部グローバルビジネス本部長委嘱<br>平成19年4月 常務執行役員兼務<br>平成20年4月 営業・CRMグループ総括委嘱<br>平成22年4月 経営企画室長委嘱<br>平成23年3月 常務執行役員退任<br>経営企画室長解嘱 | 10,000株    |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                            | 略歴、地位及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 所有する当社<br>株式の数 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2         | <p style="text-align: center;">た      なか      のぶ      よし<br/>田      中      信      義<br/>(昭和22年7月6日生)</p> | <p>昭和46年10月 司法試験合格<br/>昭和49年4月 福島地方裁判所判事補<br/>昭和52年4月 横浜家庭裁判所判事補兼横浜簡易<br/>裁判所判事<br/>昭和54年4月 東京地方裁判所判事補兼東京簡易<br/>裁判所判事<br/>昭和57年4月 金沢地方・家庭裁判所七尾支部判<br/>事補<br/>昭和60年4月 法務省訟務局付検事<br/>平成元年4月 同局参事官<br/>平成3年4月 東京高等裁判所判事職務代行（知<br/>財訴訟担当）<br/>平成5年4月 東京高等裁判所判事（同）<br/>平成7年4月 法務省訟務局民事訟務課長<br/>平成8年4月 同局総務課長<br/>平成10年4月 法務大臣官房参事官（訟務担当）<br/>平成11年4月 東京高等裁判所判事<br/>平成12年4月 東京地方裁判所判事（部総括）<br/>平成16年4月 横浜地方裁判所判事（部総括）<br/>平成17年4月 松山地方裁判所長<br/>平成18年6月 長野地方・家庭裁判所長<br/>平成19年5月 知的財産高等裁判所判事（部総括）<br/>平成21年3月 任期終了退官<br/>平成21年9月 弁護士登録<br/>平成21年10月 東京地方裁判所民事調停委員（現<br/>任）<br/>平成22年11月 中央建設工事紛争審査会特別委員<br/>（現任）</p> | なし             |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                         | 略歴、地位及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 所有する当社株式の数 |
|-------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 3     | かみ 神 や 谷 く に ひろ 國 廣<br>(昭和19年8月16日生) | 昭和43年4月 株式会社日立製作所入社<br>平成11年4月 同社経理センタ長<br>平成12年4月 同社財務一部長<br>平成13年6月 同社理事<br>平成14年6月 同社情報・通信グループC O O 兼 Eソリューション推進本部長<br>平成16年10月 日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社代表取締役会長就任<br>平成19年3月 同社代表取締役会長退任<br>平成19年6月 日立マクセル株式会社取締役就任<br>監査委員長<br>平成20年10月 社団法人日本監査役協会会計委員会委員<br>平成21年6月 同協会基本問題検討委員会専門委員<br>平成22年6月 日立マクセル株式会社取締役退任<br>平成22年10月 社団法人日本監査役協会基本問題検討委員会専門委員及び会計委員会委員退任 | 5,000株     |

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 田中信義氏及び神谷國廣氏は、社外監査役候補者であります。  
なお、社外監査役候補者に関する特記事項は以下のとおりであります。
- (1) 田中信義氏につきましては、会社の経営に関与したことはありませんが、法曹界における豊富な経験と法律家としての専門的見地に基づいた見識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として選任をお願いするものであります。
  - (2) 神谷國廣氏につきましては、経営者としての豊富な経験と財務及び会計に関する幅広い見識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として選任をお願いするものであります。
  - (3) 当社は、田中信義氏及び神谷國廣氏が原案どおり選任された場合には、両氏との間で損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。当該契約に基づく賠償責任限度額は、8百万円又は法令が規定する額のいずれか高い額としております。
  - (4) 当社は、田中信義氏及び神谷國廣氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出る予定です。



#### 第4号議案 役員賞与支給の件

当期末時の取締役7名のうち、社外取締役を除く取締役5名に対し、当期の業績等を勘案し、役員賞与として総額60百万円を支給いたしたいと存じます。また、各取締役に対する金額は取締役会の決定によることといたしたいと存じます。

#### 第5号議案 取締役に対するストック・オプション報酬額及び内容決定の件

当社取締役に対して、業績向上に対する意欲や士気を高揚させ、株主と株価を意識した経営を推進し、企業価値の向上を図ることを目的に、報酬として新株予約権を年額30百万円の範囲で付与することにつきご承認をお願いするものであります。

当該報酬額につきましては、一般的に用いられている公正価額の算定方法に基づき算出いたします。

なお、当社の現在の取締役は7名（常勤取締役5名、社外取締役2名）であります。第2号議案が原案どおり承認可決されますと、取締役は8名（常勤取締役5名、社外取締役3名）となります。ただし、社外取締役に対しては新株予約権を割り当てないものといたします。

報酬として付与する新株予約権の内容等は、次のとおりであります。

##### 1. 新株予約権の総数

100個を本総会の日から1年以内の日に割り当てる新株予約権の数の上限とする。

##### 2. 新株予約権の目的である株式の種類及び数

新株予約権1個当たりの目的である株式の数（以下「付与株式数」という。）は当社普通株式1,000株とし、当社普通株式100,000株を、本総会の日から1年以内の日に割り当てる新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式の数の上限とする。

なお、新株予約権の割当日後、当社が株式分割（普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）又は株式併合を行う場合、当社が合併、会社分割又は資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、それぞれ必要かつ適切な付与株式数の調整を行うものとする。

### 3. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額（以下「行使価額」という。）に付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く。）における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額（1円未満の端数は切り上げる。）とする。ただし、当該金額が新株予約権の割当日における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値（取引が成立しない場合には、それに先立つ直近日の終値）を下回る場合は、当該終値を行使価額とする。

なお、新株予約権の割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、当社が合併、会社分割又は資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとする。

### 4. 新株予約権を行使することができる期間

平成26年9月1日から平成28年8月31日まで

### 5. 新株予約権の行使の条件

(1) 権利行使時においても当社又は当社子会社の取締役もしくは従業員であることを要する。ただし、権利行使期間中に退任、退職により対象者としての地位を喪失した場合は、喪失後1年間（喪失後1年以内に平成28年8月31日が到来する場合にあっては、同日まで）に限り新株予約権の行使を認める。なお、平成26年8月31日までに退任、退職により対象者としての地位を喪失した場合は、平成26年9月1日から1年間に限り新株予約権の行使を認める。

(2) 新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。

(3) その他の条件は、本総会決議及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約において定めるところによる。

### 6. 新株予約権の譲渡制限

譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要するものとする。

### 7. 新株予約権のその他の内容

その他、新株予約権の募集事項及び細目事項については、取締役会決議により定める。

## 第6号議案 従業員等に対してストック・オプションとして新株予約権を発行する件

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、以下の要領により、当社の使用人（以下「従業員」という。）並びに当社子会社の取締役及び従業員に対し、ストック・オプションとして新株予約権を発行すること及び募集事項の決定を当社取締役会に委任することにつきご承認をお願いするものであります。

### 1. 特に有利な条件で新株予約権を引き受ける者の募集をすることを必要とする理由

業績向上に対する意欲や士気を高揚させ、株主と株価を意識した経営を推進することを目的に、当社の従業員並びに当社子会社の取締役及び従業員に対し、新株予約権を無償で発行することとし、もって当社グループの企業価値の向上を図るものであります。

### 2. 新株予約権の割当てを受ける者

当社の従業員並びに当社子会社の取締役及び従業員に割り当てるものといたします。

### 3. 新株予約権の内容等に関する事項

本総会の決議による委任に基づいて、当社取締役会において募集事項の決定をすることができる新株予約権の内容等は、次のとおりといたします。

#### (1) 新株予約権の数の上限

下記(3)に定める内容の新株予約権150個を上限とする。

#### (2) 新株予約権と引換えに払い込む金銭

新株予約権につき金銭の払込みを要しないこととする。

#### (3) 新株予約権の内容

##### ① 新株予約権の目的である株式の種類及び数

新株予約権1個当たりの目的である株式の数（以下「付与株式数」という。）は、当社普通株式1,000株とし、新株予約権の行使により交付される株式の数は、当社普通株式150,000株を上限とする。

なお、付与株式数は、新株予約権の割当日後、当社が株式分割（普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）又は株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨て

るものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割又は併合の比率

また、新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割又は資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

## ② 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額（以下「行使価額」という。）に付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く。）における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額（1円未満の端数は切り上げる。）とする。ただし、当該金額が新株予約権の割当日における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値（取引が成立しない場合には、それに先立つ直近日の終値）を下回る場合は、当該終値を行使価額とする。

なお、新株予約権の割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、行使価額は、次の算式により調整されるものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割又は併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で新株発行又は自己株式の処分（新株予約権の行使等による場合を含まない。）を行うときは、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記の算式において、「既発行株式数」とは、当社の発行済株式の総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」、「新規発行前の時価」を「処分前の時価」にそれぞれ読み替えるものとする。

さらに、新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割又は資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとする。

③ 新株予約権を行使することができる期間

平成26年9月1日から平成28年8月31日まで

④ 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

イ. 新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

ロ. 新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、前記イ. の資本金等限度額から前記イ. に定める増加する資本金の額を減じた金額とする。

⑤ 新株予約権の譲渡制限

譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要するものとする。

⑥ 新株予約権の取得の事由及び条件

イ. 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約承認もしくは株式移転計画承認の議案が株主総会において承認されたときは、当社は、取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

ロ. 新株予約権者が、取締役会決議もしくは取締役会決議に基づく新株予約権割当契約において定める権利を行使する条件に該当しなくなったために新株予約権を行使できなかった場合、又は新株予約権の全部もしくは一部を放棄した場合は、当社は当該新株予約権を無償で取得することができる。

⑦ 端数の取扱い

新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てるものとする。

⑧ 新株予約権の行使の条件

イ. 権利行使時においても当社又は当社子会社の取締役もしくは従業員であることを要する。ただし、権利行使期間中に退任、退職により対象者としての地位を喪失した場合は、喪失後1年間（喪失後1年以内に平成28年8月31日が到来する場合にあっては、同日まで）に限り新株予約権の行使を認める。なお、平成26年8月31日までに退任、退職により対象者としての地位を喪失した場合は、平成26年9月1日から1年間に限り新株予約権の行使を認める。

ロ. 新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。

ハ. その他の条件は、本総会決議及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約において定めるところによる。

(4) 新株予約権のその他の内容

その他、新株予約権の募集事項及び細目事項については、取締役会決議により定める。

以 上

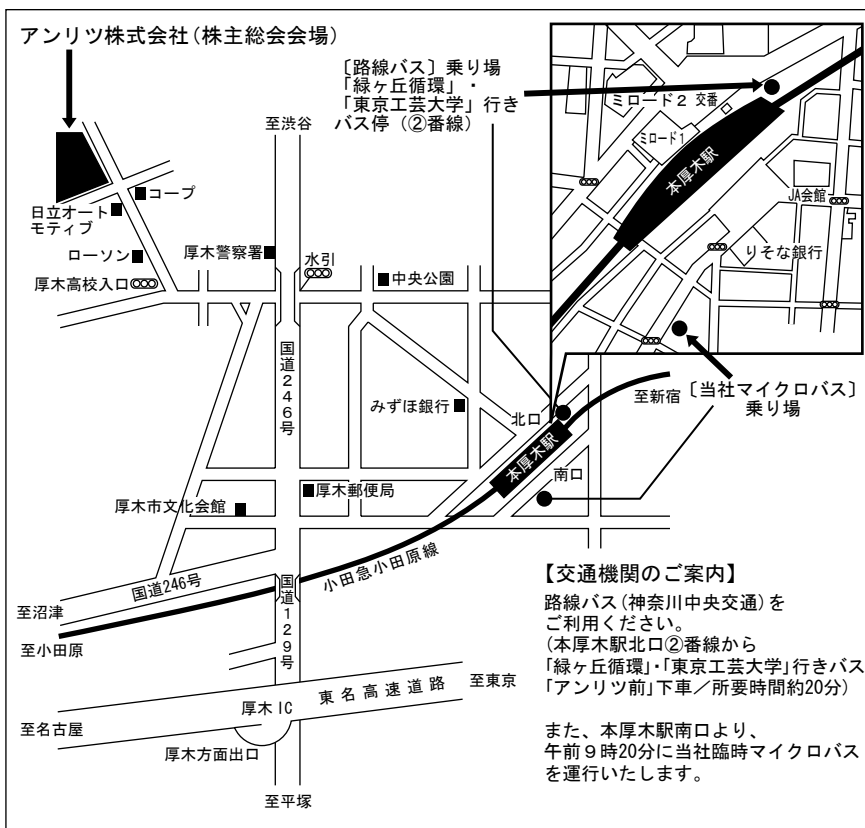


# 株主総会会場ご案内図

会場 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号

当社 R & D館 会議室

TEL (046)223-1111



※お車でのご来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。